



第6章 平成22年度文部科学省・大学院教育改革支援プログラム：「古典力と対話力を核とした人文学教育」との協同

深見，貴成

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 9(平成22年度事業報告書):47-47

(Issue Date)

2011-03-31

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002930>



域文化の保全・活用に寄与できる教員養成に努めていく予定である。

(文責・河島真)

博物館学関連科目の変更にに向けて

平成 24 年度に博物館法施行規則が改正されるのにもなつて、学芸員資格取得に必要な博物館関連科目も変更されることから、教務委員会内にワーキング・グループを設置し、関係教員と対応を協議した。

(文責・古市晃)

第6章 平成22年度文部科学省・大学院教育改革支援プログラム「古典力と対話力を核とした人文学教育」との協同

人文学研究科の大学院教育改革支援プログラム(院プロ)は事業として最終年度をむかえ、これまで以上にイベント等が活発におこなわれた。

そもそも院プロでは「四つの場」として、①古典ゼミ、②コロキウム、③古典サロン、④フォーラムがあり、それに加え授業として「古典力基盤研究」と「古典力発展演習」が設定されている。

以下は、今年度の院プロ関連の事業である(他の項目で記述したものは簡潔に記した)。

(1) 授業(古典力発展演習Ⅱ)

これは伊丹市立博物館における展示「平成 22 年度秋季企画展 阪神・淡路大震災 15 年 伊丹からの発信」(2010 年 10 月 2 日～11 月 21 日)の展示協力・展示作成である。これは前期の大学院博士課程の科目として展開した。詳細は別項を参照されたい。

(2) 古典ゼミ「兵庫津・神戸研究会」

本年度の「兵庫津・神戸研究会」では、水内俊雄・加藤政洋・大城直樹『モダン都市の系譜』(ナカニシヤ出版、2008 年)の輪読会をおこなった。参加人数は毎回 4 人～7 人であり、大学院生だけでなく学部生も参加した。日程は以下の通りである。

① 5 月 24 日、② 5 月 26 日(兵庫県立美術館「写真家中山岩太展」見学会)、③ 6 月 7 日、④ 6 月 21 日、⑤ 7 月 7 日、⑥ 10 月 25 日、⑦ 11 月 8 日、⑧ 3 月 16 日。

本古典ゼミは、神戸や兵庫だけではなく、海

港都市をどのように考えるかというテーマがあった。参加者が日本史専攻に限られていたことから、院プロの主題の一つである学際的な議論は難しかったが、毎回白熱した議論が展開された。

(3) 古典サロン

今年度も古典サロンとして生野合宿が 2011 年 2 月 19 日から 20 日におこなわれた。詳細は別項(第 5 章)を参照。

(4) フォーラム

2010 年 12 月 7 日に「兵庫津・神戸研究会主催フォーラム『LINK』第 2 号書評会」がおこなわれた。報告者は三村昌司氏「特集「“地域の再生”と歴史文化」論評」、河野未央氏「史料ネットの災害対応に寄せて」、コメントは山本康司氏「『LINK』に関する感想」であり、参加者は 31 人であった。

このフォーラムでは地域の再生をどう考えるかということについて様々な角度から議論がなされた。そもそも地域の再生とは何を指すのか、そこに歴史文化というものがどう関わられるかという問題が投げかけられた。

同じく、フォーラム第 9 回地域連携協議会(2011 年 1 月 30 日)については、別項(第 1 章)を参照されたい。

(文責・深見貴成)

第7章 平成22年度科学研究費助成金・基盤研究(S)

「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」の研究支援

2010 年 4 月からスタートした上記のテーマの科学研究は、今年度のテーマを「地震時の資料保全論を中心とした地域歴史資料学の提示」として、さまざまな研究活動を展開した。以下、特に神戸大学関係の研究活動について記す。

■地域歴史資料学の研究成果としては、まず、5 回の地域歴史資料学研究会を開催した。内容は、第 5 回「震災関係行政文書に関する整理と保存に関する研究会」(2010 年 5 月 28 日)、第 6 回「地域史料の日韓比較」(7 月 12 日)、第 7 回「地域歴史資料学の構築にむけて」(8 月 11 日)、第 8 回「県内文化財防災体制構築研究会」(9 月 28 日)、第 9 回「音声記録の調査をふまえた地域歴史資料学の一考察」(2011 年 2 月 24